



題字：家吉 真央

上中から元気を発信!!

9月から練習を始めた上中ソラーラン。運動会までのタイムリミットがせまる中、3年生を中心に振り付けを覚え、教え合った。今年の上中ソラーランのテーマは、「力強さ」と「一体感」だ。目線や表情、動きのタイミングなど細部までこだわりぬいた。「見ている人に元気を発信したい」との思いで必死に練習を続けてきた。また、見ている人の目をひくような演出にするために、イヤーマキやハッピ、勝形移動を工夫した。

本番直前、ハッピを身にまとい、イヤーマキを締めて気合いを入れた。「上中ソラーラン、ヤーッ」の声でスタート。これまで練習してきたこと、支えてくださった方々への感謝、元気を発信すること一人一人が意識して踊った。踊り終えた上中生の顔にはさわやかな汗と達成感あふれる表情が浮かんでいた。(中尾(運))

全力投球 限界をこえろ!

～輝け! 55の色～

9月23日、第8回幼小中合同大運動会が開催された。青空が広がり、心地よい風が吹く絶好の運動会日和の中、紅白の熱い戦いが繰り広げられた。園児、児童、生徒55名が輝く最高の運動会となった。

白熱した戦いも練り広げ、会場を盛り上げた白回、紅回の戦い。徒競争や生徒会種目では、勝敗を競い合い、会場が一体となって応援した。夏休みから力を入れて練習してきた応援合戦は両回とも力を発揮できたようだ。白回は応援の部で4点の差で紅回に敗れ、悔しさを噛み締めた。9月の種目がある中、両回員は「紅白対抗全員リレー」が最も印象的だと話す。「バトンパスをする瞬間、優勝したいという思いが一つに合った」と感じたい。予想外の展開に驚いた。総合理由では種目だけでなく、総合得点で優勝をつかみ取ったのは白回だ。2

熱き戦い!

連覇の白回は喜びの笑顔を浮かべ、応援の部で敗れたことへの悔し涙も流した。運動会終了後の懇話会では、一人一人がこれまでの思いや感謝を伝えた。3年生の強い思いを聞く1・2年生の真剣な表情が印象的だった。3年生にとっても2年生にとっても最高の思い出となった。

〒896-1201
薩摩川内市 上飯町
中飯 191-1
上飯中学校生徒会
清書(表): 瀧邊 香乃
中間 絵恋
(裏): 内山 翔斗
中尾 歩
リーダー: 家吉 真央

連覇の白回は喜びの笑顔を浮かべ、応援の部で敗れたことへの悔し涙も流した。運動会終了後の懇話会では、一人一人がこれまでの思いや感謝を伝えた。3年生の強い思いを聞く1・2年生の真剣な表情が印象的だった。3年生にとっても2年生にとっても最高の思い出となった。

西郷どん



幕府がほろび 新しい政府へ。
鳥羽・伏見の戦い
西郷は政治を大久保に頼み、鹿児島へ戻る。

新政府は うまくいかない
一、洋式軍隊の養成。
二、警備制度の確立。
三、廃藩置県。

1868年(42才)
1874年(48才)
1877年(51才)

1877年9月24日 午前7時(51才)
政府の総攻撃を受け、自ら死を選んだ。

11月号では、西郷どんに関する豆知識をご紹介します♪

白は団長と、正直不安なことを任された。しかし、団員の協力を頼みしを受け、団長としての役目を果たすことができた。感謝したい。(内山翔斗)

白は団長と、正直不安なことを任された。しかし、団員の協力を頼みしを受け、団長としての役目を果たすことができた。感謝したい。(内山翔斗)

上中ソラーランが、一つ一つの動きに波の動きを感じることができ、迫力や強さが伝わってきた。来年も楽しみたい。(地域の方より)

3年生にとって、最高前の運動会。親子連日での親子の力に差があまりないことや後輩をリードする姿に我が子の成長を感じた。(3年保護者)

聞いて！

上中生の主張

7月13日に上飯中学校体育館において校内外弁論大会が行われた。上中生は一人一人が自分の思いを表現し、熱弁した。各学年が、大まかにテーマや他の学年からの弁論の感想や気付いたことと聞いた。



1年生のテーマは、「地域」と「部活」で2年生は「将来の自分」「この水がらの小る」と3年生は「将来の自分」と「今の自分」が大半か好テーマだった。

3年生 ↓ 2年生
自分の将来について

正面から向き合っていることがよく伝わった。郷土愛が伝わり、大切さがよく伝わり、内容的な視点でよく書かれていた。



2年生 ↓ 1年生

○ 去年の自分たちと比べると具体的に書がれていた。
○ 熱心さがよく伝わってきた。
○ 自分の思いをストレートに表現していた

1年生 ↓ 3年生
新たな発見ができた

主張に対して共感することもあり、
○ 文章の構成が工夫されていてとても勉強になった。
○ 主張が明確で、説得力があった。

今回の弁論大会で生徒一人一人の考えの幅が広がり、いい経験になった。これから、海風などで文章構成もするときに生かしていきたい。



(伊木・西)

視点 防災への関心は？

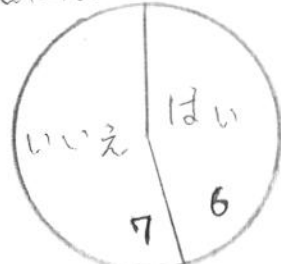
日本は、自然災害が多い国だ。最近では、8月に北海道胆振東部地震が発生し、地震を中心とする災害への関心は年々高まっている。そこで、上中生の関心度を調査し、防災や自然災害から学んだことについてアンケート調査を行った。(数字は人数)

Q2. 私たちはどう行動する？

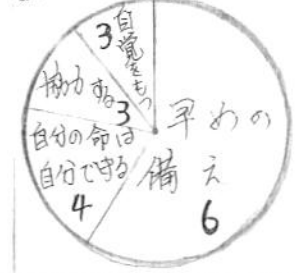


複数回答

Q1. 何か対策をしている？



Q3. 災害がどんなことを学んだ？



複数回答



(内山・勝田)

Q1: 上中生の災害に対する意識が薄いので、生徒会で何か取り組みたいことが必要である。
Q2: だいたいどのようになっているかを考えていかなければならない。
Q3: 「自覚もつかなければ、ただでなく、行動に務める必要性を感じた。」

「編集後記」
今回は、上中生が地域に元気を発信した場面を取り上げました。また、視点は、災害をテーマにした記事に注目を集めています。皆さんも災害について見直してみませんか？
来月号では、上中生の思いを中心に取り上げた記事になっていきます。来月号も、ぜひお楽しみに。

(伊木・琴奈)



「よろこそ、我らが上飯中学校へ」
9月7日に、新しくアメリカのチキンス州からALITとしてジョセフ・フリーマン先生が来校された。先生はスポーティでゲームが好きで、とても明るく親しみやすく話しが盛り上がる先生だ。
(中尾(杏)・家吉(正))